

ICT支援室4年間の取り組み

ICT機器による読み書き支援



平谷美智夫

第6回ディスレクシアセミナー IN FUKUI

令和5年10月29日（日） 午前10時～12時

zoomを使ったオンライン配信 後日録画配信あり

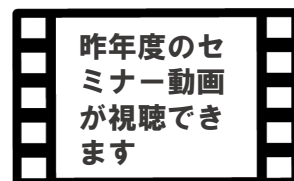


講座1 10:00～10:40 平谷美智夫
DD1000例の分析からみた日本語話者のDDの実態と
DD支援の切り札と考えている当法人のICT支援の概要

講座2 10:45～11:15 石丸真一
あなたはひとりじゃない

講座3 11:15～11:35 吉田高志
ICT支援室4年間の取り組み
ータイピング能力の向上と作文指導ー

Q&A 11:35～12:00



昨年度のセ
ミナー動画
が視聴でき
ます

申込先 peatix 第6回ディスレクシアセミナーIN FUKUI
参加費 一般2000円 保護者1000円 学生500円



主催 医療法人平谷こども発達クリニック 福井市北四ツ居2-1-1409
問い合わせ先 E-mail: hiratani.seminar.2019@gmail.com

第6回 ディスレクシアセミナー in Fukui 2023.10.29

読字障害 (Developmental Dyslexia=DD:ディスレクシア) の診断と支援

ディスレクシア (DD) は知的能力には問題はなく文字に触れる機会が保障されているのにも関わらず、文字をスラスラ読めない障害です。文字を書くことも苦手なのでわが国では読み書き障害と呼ばれることもあります。学習障害 (LD) の一つのタイプです。日本は (おそらく世界一) 文字を書く事を重視する国ですので、高学年になると読みよりも書字障害の側面が強くなります。病態の基本は音韻認識の弱さによると考えられています。:「ごりら」は「ご・り・ら」の3つの音からできていてまんなかの音をぬいたら「ご・ら」。尻とり遊びで単語の最後の音と最初の音に意識をむけること などはこの音韻認識によります。従来日本ではDDは稀と考えられてきましたが、決して稀ではありません。当クリニックでの診断例は1000例に達しました。

キーワード:

- ①DD: Developmental Dyslexia (発達性ディスレクシア=読字障害)
- ②ADHD: 注意欠如・多動症 ③ASD: 自閉症スペクトラム障害 ④音韻認識
- ⑤ICT (Information and Communication Technology) 通信技術を活用したコミュニケーション
- ⑥ICT支援室・家庭・学校・クリニックの連携 ⑦タイピング能力: Keyboarding Skill
- ⑧作文指導

講座1: 医療法人平谷こども発達クリニック院長 平谷美智夫

DD1000例の分析からみた日本語話者のDDの実態とDD支援の切り札と考えている当法人のICT支援の概要

LDに関わって35年、DDに関わって22年、ICT支援を開始して10年。ICT支援室開設して4年目。1000例のDD診断例の分析で見えてきたこととDDへのICT支援の概要を紹介する。①DDは稀ではない。②DD単独例は約15%と少なくADHD並存例が50%、自閉症スペクトラム障害併存も少なくない。③書字を必要以上に重視する教育現場で書字の困難さがDDの教科学習を苦しめている (Paperlessの時代、文字を書く時代は終わったと思います) ④DDの大多数は学業困難に陥る (DDの存在を無視した教え方と評価方法による場合が少なくない) ⑤音韻意識を要求される英語の成績は惨憺たるものである (DDに何の配慮もなく読み書きの英語を教えるのは虐待に近い仕打ちである) ⑥DD児童は不登校に陥りやすい ⑦福井県での合理的な配慮は徐々にしかし確実に浸透しつつある ⑧DD児童は意外?と上手く自立できている ⑨“DD児にICT機器を活用するスキルを付与して読み・書き・思索活動の展開をより容易にできるように援助する” DDの診療と支援20年の活動で到達した考えである。わが国の教育現場でのICTの活用は国際水準にはるかに及ばないが、有能なICT支援室のスタッフの創意工夫で予想以上の成果が産まれている。

講座2 ICT支援室 石丸真一 あなたは、ひとりじゃない

こんな素直な子だったんだ。すごいがんばり屋さんだったんだ。支援をしていると子どもの姿に驚かされます。どんなお子さんもよい面もあれば悪い面もあります。読み書き障がい、人間関係、同調圧力など、様々なことが原因で素直になれないお子さんが来所します。よい面を出したくとも素直になれずにいます。3つの約束をします。①Staffはあなたの味方です。②嫌なことはさせません。③だから、嫌なことは「嫌です」と話してください。そこから出発します。母親もひとりぼっち、お子さんもひとりぼっち、学校の先生も一人で困っている。そんなケースは少なくありません。私たちStaffは、お母さんと一緒に歩みます。学校と協力します。そのために、①お母さんに、お子さんの特性を理解してもらいます。②先生にお子さんの特性を理解してもらいます。③本人に自分の特性を理解してもらいます。このような活動の一端をご紹介します。

講座3 ICT支援室 吉田高志 ICT支援室4年間の取り組み -タイピング能力の向上と作文指導-

ICT支援室は開設して4年目となる。ADHD・ASD・ADHD+ASDにDDを併存する児童、生徒 (読みと書きが困難) とDDを併存しない児童、生徒 (書きが困難) にICT機器を活用するスキルを高める支援を行ってきた。その中核をなすタイピング力は、個人差はあるが着実に向上することが分かってきている。キーボードアドベンチャーの検定で初段まで到達した児童、生徒も全体の1割近い。しかし、詳細に見ていくと様々な躓きが見られる。例えば、タイピング課題が長文となった場合に著しく遅滞するという傾向が見られる。課題文の誤読やタイプする時の母音の取り違えなどが主な原因である。このような問題に対して①漢字仮名交じり文の早期導入②タイピング時の母音の確認などの支援を行うことで、良好な結果を出すことが出来るようになってきた。こうした躓きに対する指導について具体的に述べたい。また、タイピング力を生かした作文指導についてもふれたい。